

仲間とともに 地域に輝き

課題解決型インターンシップ

本学キャリアデザイナインセンタの課題解決型インターンシップは、地域の各種団体や企業が抱えるさまざまな課題について、学生が学部学年の枠を超えてチームを組み、解決策を提案する専攻独自の取り組み。



▲チアリーダー部とセンティ、かきまるくんが見事なダンスを披露した
▼柿まつり当日、スタッフとして働く清水さん

日本最古の甘柿とされる柿まつり。今年は学生2人がミュージックビデオ(MV)制作に協力した。課題解決型インターンシップと柿まつりの縁は深い。ゆるキャラ「かきまるくん」も、イメージソング「かきくけかき」も過去の専攻生のアイデアが誕生きっかけとなった。

開催20周年を記念して、主催の柿中央商店会では「かきくけかき」の歌に合わせて市民らが踊るMVを制作することになった。清水さんは「地域活性化に興味がある」という清水さんは「MVは好評で、地元を盛り上げたことができてよかった。飯塚さんは「出演したとされる『遊相日記』を書いた人物は、横浜市青葉区江田駅周辺の地理や歴史、店舗情報などを担当地ネタ満載の8、10月号のそれぞれ1クロスワードパズルが掲載されたのは、アスミックの地域情報にこだわった。

子ども目線で 来場者増やす



子どもたちを楽しませる専大生5人

多摩川河川敷のすぐ近、専大生はスノーボード、ゲームに興じる子ども、すくいのコを指南した目線に立ち、子どもたちの歓声が響いた。り、割りと着鉄砲を一緒に作ったりして、子どもの目線に立ち、子どもたちの歓声が響いた。

岡本太郎美術館「鉄道美術館」ワクワク鑑賞イベント

川崎市岡本太郎美術館の状況を楽しんだ。会場では7月から10月まで開催された企画展「鉄道美術館」に学生5人が参加した。



専大生が中心となって企画したのが9月4日に行われた「美術館たんざくツアー」。同展のジオラマ展示にまつわるクイズを出題、参加者が鑑賞しながら回答する、参加型のイベント。

学生も異なるメンバーゆえ、「最初は学生同士のコミュニケーションも打ち合わせも難しかった問題、館の公式イベントとしてレベルに達していきなりました。開催期間内にも積極的に姿勢が見られ、業を煮やした大杉さんが「他人任せにせず課題を解決することの大切さを理解してくれたのでは」と大杉さんは来場者の対応をする学生たちを温かく見守った。



印刷された紙面を手にする4人

「江田に昔住んでいた久横濱市が発行するミニコミ紙『Yopp!』(隔月発行)8月号。アスミックからの課題は、学生ならではの視点で、商店会を盛り上げることに断られた。結局電話では1店しか集まらず、直接店舗を回ってお願いすることに。最終的に6店が賛同してくれ、プレスには200件近い応募があった。



完成した試作品

中小企業合同説明会

会社取材し魅力を紹介

「かながわJobway」は神奈川県中小企業家同友会・横浜市が実施する合同企業説明会。サテライトイベントでの開催(11月10日)に向け、今回初めて専大生5人が広報活動を担当した。

大城真衣子さん(経済2)は、自分とは縁がないと思っていた業界や業種の企業も担当し、視野が広がった。「働いてい気が伝わるように意識して記事を書いたと話す。目上の人と話すのが苦手だった鬼澤祐希さん(商3)は、同友会理事の岩倉昌幸さん(共同求人委員長)らと接する

記事は、同友会の就職情報サイト「かながわJobway」のジョブブログに掲載。説明会当日までに参加30社分をアップする計画だったが、確認や手直しに時間がかかり、一部しか間に合わなかった(現在はすべて掲載)。「広報として機能しなかったと落胆さんは反省する。同友会の岩倉さんは「各社と付き合いの長い私も初めて知る話がある」、学生ならではの視点に力をつけてほしい。



課題に取り組んだメンバーたち

野草テーマの複合施設企画



鳳賞に輝いた仁木さん

OBや教員らが審査する。今年は33組が応募。書類審査を通過した10組がプレゼンテーション大会に挑んだ。仁木さんのテーマは「地域農業活性化プロジェクト」。植物図鑑をベースにした複合観光施設を提案した。

具体的な場所を選定し、著作権についても実際に問い合わせ確認するといった実現性追求する姿勢や、プレゼンテーション能力の高さを審査員が評価。農業関連のビジネスプランはこれまで出なかった。

「向上心を忘れず今後を生かして」という温かい言葉の一方、また受け身の姿勢が見える。もっと主体的であってほしいと指摘が飛び、受講生は指節を伸ばし聴き入っていた。進行役を務めたのは受講生の今野利哉さん(経済1)。発表の台間に「外の世界には自分を変える『1』が転がっている。自分がから探して行くことが大事。など、感嘆符のボートを使いユニークなコメントを披露した。修了式では、三好奈奈さん(文3)が「掛け替えのない仲間と考えや意見を共有し、多様な個性が成果につながる。一人一人に修了証が手渡された。

専大ベンチャービジネスコンテスト 鳳賞に仁木さん

学生のビジネスプランを競う専大ベンチャービジネスコンテストが11月26日、生田キャンパスであり、最優秀の鳳賞に仁木美さん(ネット情報)

3「写真」が選ばれた。コンテストは起業家精神養成を目的に毎年開催しており15回目。学生が考案したビジネスプランについて、企業を運営する

リーダーシップ開発プログラム 第4期最終報告会・修了式 25人が学びの成果発表



専大生はスノーボード、ゲームに興じる子ども、すくいのコを指南した目線に立ち、子どもたちの歓声が響いた。り、割りと着鉄砲を一緒に作ったりして、子どもの目線に立ち、子どもたちの歓声が響いた。